２０２２年（令和４年）　５月２５日　水曜日

東奥日報　１３面　掲載

光星4回一挙7点

工大二、好機に打線不発

【評】同点で迎えた四回、八学光星は深野の適時打で勝ち越すと、なおも満塁の場面で井坂が走者一掃の三塁打を決めて点差を広げた。先発した主戦洗平歩は4失点と振るわなかったが、継投した宇田、越田が三回以降を1失点に抑えた。

八工大二は二回、連打から満塁の好機をつくり、連続の押し出し四球などで一時逆転に成功したが、三回以降は打線がつながらず大量点を挙げられなかった。

しっかり修正したい。自分たちの野球ができれば、負けないと思う」

【八工大二―八学光星】4回裏、八学光星2死満塁、井坂が左中間を破る走者一掃の適時三塁打を放ち、10―4とリード。捕手・種子―長根公園

井坂5打点、大暴れ

○…八学光星の井坂は初回に2点適時打、四回に3点適時打を放ち、4打数3安打5打点と大暴れ。昨年秋から左腕の投手を想定した打撃練習に取り組んできたといい、「バッティングは得意な方ではないが、冬場に振り込んだ成果が出た」と手応えを口にした。

一方、守備では2塁手で失策にからみ、一時逆転を許すなど課題も残った。

東北大会の出場権が懸かる準決勝は青森山田が相手で、一つのミスが命取りになりかねない。「あと3日あるので、

春季

県高校野球

第３日

春季県高校野球選手権は第3日の24日、八戸市長根公園野球場と六戸町メイプルスタジアムで準々決勝4試合を行った。弘前学院聖愛は、3番高木の満塁本塁打などで東奥義塾に逆転勝ちし、準優勝した2019年以来の4強入り。青森山田は弘前工の先発成田晴の好投に終盤まで手を焼いたが、山田の適時打でサヨナラ勝ちした。昨年覇者の八学光星は、12安打15得点の猛攻で八工大二にコールド勝ち。八工大一は2戦連続の2桁得点で、粘る木造を退けた。大会後半の第4日は28日、ともに長根公園野球場で、午前11時から八工大一―弘前学院聖愛、午後1時半から八学光星―青森山田の準決勝2試合を行う。（本紙取材班）

工大一―聖愛
光星―山田高
4強 28日激突

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです